

馬淵繊維

「さぬき木綿」復活

09春夏から一部商品化

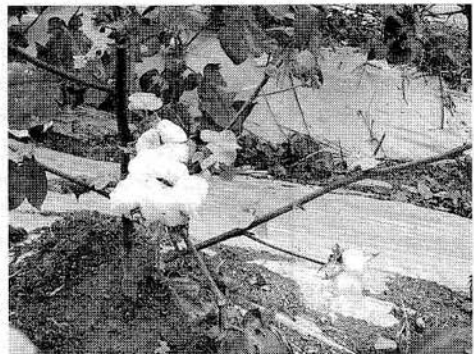
大手ニッターの馬淵繊維（香川県高松市）は、大正紡績と協力して展開するオーガニックコットン製品の自社ブランド「アイランドテック」で、在来種綿花（和綿）の国内栽培復活に取り組んでいる。今年6月、同社が運営する農園「マブチの里」（香川県高松市）に綿花7700株を栽培し、今月4日に無事収穫した。同社では、この綿花を大正紡績で紡績し、セーターや子供服にして「アイランドテック さぬき木綿」ブランドと製品OEM（相手先ブランドによる生

産）で09春夏から一部販売をスタートする予定だ。今回の和綿栽培は、江戸期より「讃岐三白」の一つとして知られる讃岐地方の特産品だった綿花の栽培を復活させるプロジェクトである。今季は試験栽培と



綿花を収穫する馬淵社長（左）と近藤取締役（右）

で7畝の耕地に在来種の茶綿と緑綿を各500株、アップランド種



見事なコットンボールが育った

を有機栽培し、約1800㎡の綿花を収穫した。同社では来季から耕地面積を3・3万平方メートルに拡大し、栽培を拡大する。収穫した綿花は、大正紡績が紡績を担当し、30双糸、40三子糸にして、馬淵繊維で婦人セーターや子供服に製品化する。すでに大

手百貨店3社から引き合いがあるという。また、横編みだけでなく、協力関係にある他産地のニッターや産元と連携して、丸編みジャージや布帛製品と

4日の収穫には、馬淵義夫社長と馬淵たみ子専務、馬淵繊維の社員のほか、栽培のアドバイザーを務める大正紡績の近藤健一取締役も駆けつけた。馬淵義夫社長は「最近、繊維製品でも『安心・安全』への注目が高い。しかも顧客は本当に差別化できる商品を求めている